

# 研究調査報告書

教科名 ( 国語 )

項目	『新編 新しい国語』（東書・2）
教育基本法、学校教育法の下での中学校学習指導要領の教科の目標とのかわり	<p>○各学年ともに、本編、基礎編、資料編で構成されており、本編は7単元からなる。各単元は系統性を持って配置されており、小学校からの学習を踏まえ、学年の発達段階に応じて学習が深まるようになっている。</p> <p>○各単元では、教材に即して多様な言語活動が設定されており、言語活動をとおして各領域の指導事項をバランスよく身に付け、思考力や想像力を養い、言語感覚を豊かにするようになっている。</p> <p>○古典の単元における各学年に折り込みのカラー印刷の写真等の掲載、近代文学、現代文学と読み応えのある作品の設定、資料編における能、狂言など古典芸能の掲載があり、言語事項は系統的に整理されている。</p>
特色	<p><b>＜基礎的・基本的な知識・技能を習得する工夫＞</b></p> <p>○「てびき」や「学習の手順」を示し、学習活動を明確に示すとともに、身に付けたい知識や技能のポイントが「言葉の力」にまとめてある。また「たすけ」として、つまづきへの支援がされている。「学びの扉」と「学びを支える言葉の力」が連携して基礎的・基本的な内容が身に付くよう配慮されている。</p> <p><b>＜思考力、判断力、表現力等を育成する工夫＞</b></p> <p>○「読むこと」では、「てびき」に「考えを深める」ための課題を示し、学習者相互の考えを交流させて深めていく言語活動を設定している。詩・短歌・俳句を創作する学習を取り入れるとともに、資料編の「話すこと聞くこと」では、題材例、発想・整理の方法、話し合いの方法等を詳しく紹介している。</p> <p><b>＜主体的に学習に取り組む態度を養う工夫＞</b></p> <p>○巻頭に領域別に学習材一覧や「学習の進め方・教科書の使い方」を掲載したり、各教材に目標を示したりして見通しを持てるようにするとともに、「話すこと・聞くこと」「書くこと」では、複数のテーマを示して選択できるようにしたり、「学習の振り返り」を示したりしている。</p> <p><b>＜言語感覚を豊かにするための工夫＞</b></p> <p>○読み物教材には「広がる言葉」、資料編には「言葉を広げよう」を設定し、言葉に関する課題や本編の学習と関連した多くの語句を掲載している。表紙見開きや各単元の扉に詩や短歌、俳句、「四季を味わう言葉」などを掲載している。</p> <p><b>＜国語に対する認識を深め、国語を尊重する態度を育てるための工夫＞</b></p> <p>○読書案内等でテーマ別に多くの本を紹介している。様々な古典作品や古典芸能、古典文法の資料などが掲載され、折込みカラー写真も含めて学年に応じて</p>
総括	<p>○巻頭に「領域別学習材一覧」を掲載し、目標及び言葉の力を示している。「学習の進め方・教科書の使い方」「これから1年間で学ぶこと」を折り込みのカラー印刷で掲載している。</p> <p>○巻末の基礎編には「学びを支える言葉の力」に他の教科の学習や実生活に生かすための工夫が示されており、資料編には言語活動の題材や方法が簡潔にまとめられている。</p> <p>○「読むこと」の学習材の脚注は、欄が広く設けられており、ページ内の新出漢字の掲出、異体字の併記、記号の色の区別等がなされている。</p> <p>○文章のイメージを大切にイラストや絵を多く配置している。</p> <p>○巻末に「学習用語一覧」を索引として掲載している。</p> <p>○それぞれの教材で身に付けたい知識・技能のポイントを「言葉の力」で示し、3年間で系統的に積み上げられるようにしており、他教科の学習とのつながりや生活とのつながりを意識して「学びを支える言葉の力」が設定されている。生徒やコトハというキャラクターを適所に登場させ、言語活動を支援している。</p>

研究調査報告書

教科名 ( 国語 )

項目	『中学校国語』（学図・11）
教育基本法、学校教育法の下の中学校学習指導要領の教科の目標とのかか	<p>○1年から3年まで同じ単元名の5単元で構成され、発達段階を踏まえた副題の設定、教材冒頭の学習目標の提示により学習の方向性が示され、繰り返し段階的に各領域の学習が進められるようになっている。</p> <p>○「読むこと」の学習を段階的に進められるよう工夫するとともに、表現活動につなぐコラム、言葉について深めるコラムを設定することにより、興味関心を高め、思考力や想像力を養い、言語感覚を豊かにするための工夫が見られる。</p> <p>○教材「言葉と生活・言葉と文化」「今に伝わる注意したい古語」や巻末資料「語句・語彙の学習」「日本文学の流れ」など、我が国の伝統や文化、産業などを</p>
特色	<p><b>〈基礎的・基本的な知識・技能を習得する工夫〉</b></p> <p>○各単元で段階的に学習が進行するよう教材を配置し、習得、活用、探究的な学習が段階を踏んで展開できるよう工夫されている。「読むこと」では「学びの窓」に学習の仕方や学習の振り返りを設けている。コラム「活動を考える」により「読むこと」の学習内容を「話す・聞く」「書く」の活動につなげている。</p> <p><b>〈思考力、判断力、表現力等を育成する工夫〉</b></p> <p>○「読むこと」の学習を、表現活動につなぎ、発展的に学習が展開できるよう工夫されている。「情報と表現」「表現に向かう読み」では、課題に対して自ら考え表現する力がつくよう多様な言語活動が設定されている。</p> <p><b>〈主体的に学習に取り組む態度を養う工夫〉</b></p> <p>○つけたい力を「言葉の力」「考える力」「知識や技能」の三分野で明確にし、ねらいに沿って学習を振り返り、自己評価できるよう工夫されている。また、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」では、ねらいと活動の流れを示すとともに、話題や題材を生徒自身が選べるようにしている。</p> <p><b>〈言語感覚を豊かにするための工夫〉</b></p> <p>○単元の扉などに、音読や暗誦しやすい詩の一節が掲載されている。「漢字を見抜く」や巻末の「○年生の語句・語彙の学習」などに言語感覚を磨くことに資する教材が工夫されている。</p> <p><b>〈国語に対する認識を深め、国語を尊重する態度を育てるための工夫〉</b></p> <p>○古典の単元では、導入として学習の方向性を示す解説文や古典の世界をより深く味わうためのコラムが設定されている。古典作品が、作品の世界観が伝わる</p>
資料	<p>○巻頭に「言葉」を題材にした文章を掲載している。</p> <p>○各学年とも巻末に発展的な学習内容として「古典に親しむために一古典文法」「今に伝わる注意したい古語」「口語・文語活用対照表」を掲載している。</p> <p>○図表、写真、挿絵などが大きく見やすく、配色も適切に工夫されている。</p>
表記・表	<p>○脚間、語注、語句、新出漢字、行番号等につけられた記号、文字の色や書体は、学習が進めやすいよう工夫されている。</p> <p>○古典の本文では、傍注により口語訳が付されており、古典と併せて内容が理解しやすいよう工夫されている。</p>
総括	<p>○国際関係、日本の社会や国家、それらの歴史について深く掘り下げた教材を多数掲載している。各単元の教材の段階的な配置や、学習のめあて、学習手順、学習課題、学習成果の評価などにより、学習を進めやすい構成となっている。学習者に応じた学習活動ができるよう、各単元に教材や活動を選んで取り組めるよう選択教材を掲載している。</p>

# 研究調査報告書

教科名 ( 国語 )

項目	『現代の国語』（三省堂・15）
教育基本 法、学校 教育法 の下の中 学校学 習指導 要領の 教科の 目標と のかか わり	<ul style="list-style-type: none"> <li>○本編と資料編の二部構成となっており、関連する本編の学習中や前後に資料編を活用できるよう工夫されている。本編は、生徒の発達段階等を踏まえた単元構成とし、学習過程を明確にし、系統的に学習できるよう工夫されている。</li> <li>○「話すこと・聞くこと」「書くこと」の学習では、資料や機器を活用したり、合意を形成しながら課題を解決する学習活動を設定するなど、思考力や判断力を養う教材の工夫が見られる。</li> <li>○古典教材で折り込みのページを設けて資料や写真を充実させたり、資料編で日本の古典芸能を取り上げたりするなど、国語への認識を深め、国語を尊重する態度を育てる工夫が見られる。</li> </ul>
特色                    内容	<p><b>〈基礎的・基本的な知識・技能を習得する工夫〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「読み方を学ぼう」には、習得すべき知識・技能が図表等でわかりやすく整理されている。「学びの道しるべ」は、目標の確認、基本的な課題、考えを深める課題等で構成されており、段階的に繰り返して技能を習得できるよう工夫されている。</li> </ul> <p><b>〈思考力、判断力、表現力等を育成する工夫〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「読み方を学ぼう」には、他の教材の学習や日常の読書などの機会に活用できる方法が示されており、思考力、表現力等を高められるよう工夫されている。また、様々な文章を取り上げ、手紙文、創作文、意見文など、相手や目的に応じた表現の学習ができるようになっている。</li> </ul> <p><b>〈主体的に学習に取り組む態度を養う工夫〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○各教材の初めと「学びの道しるべ」の冒頭には学習目標が、最後には振り返る活動が示されており、学習の見通しと振り返りができるよう工夫されている。「学びを広げよう」では、自分で題材を設定したり学習方法を選んだりして取り組む学習が設定されている。</li> </ul> <p><b>〈言語感覚を豊かにするための工夫〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○即興劇や対話劇、句会などの「表現プラザ」の設定、生徒が慣れ親しんでいる歌の歌詞の掲載、「アルバムディクショナリー」の設定等がある。「ことば発見」や「漢字を身につけよう」では、語句・語彙や表現技法についての学習が設定されている。</li> </ul> <p><b>〈国語に対する認識を深め、国語を尊重する態度を育てるための工夫〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○資料編に落語、歌舞伎、能・狂言などの日本の伝統芸能を取り上げている。言語活動や日常の言語生活を高めるための内容や、国語の学習活動に役立つ用語などを、豊富に掲載している。</li> </ul>
資料	<ul style="list-style-type: none"> <li>○各単元に教材と関連する書籍の紹介や巻末に読書案内があり、読書指導につなげられるよう工夫されている。</li> <li>○資料編が「読書の広場」「考える広場」「参考資料」の3部構成で、実践的な方法や知識がまとめられており、活用しやすくなっている。</li> </ul>
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>○脚注はすっきりして見やすく、明朝・ゴシック・丸ゴシックなど、書体も用途による使い分けが工夫されている。</li> <li>○写真やイラストが大きく、図表や記号等は淡く柔らかい配色となっており、見やすく工夫されている。</li> </ul>
総括	<ul style="list-style-type: none"> <li>○1、2年は7単元、3年は6単元の「本編」と「資料編」で構成されている。「領域別教材一覧」につけたい力や言語活動が示されており、学習のめあてを把握しやすくしている。「考える広場」には、他教科の学習や自主的な学習でも活用できる様々な方法が紹介されており、学びをより広げたり深めたりすることに活用できるようになっている。</li> </ul>

# 研究調査報告書

教科名 ( 国語 )

項目	『伝え合う言葉 中学国語』（教出・17）	
教育基本法、学校教育法の下の中学校学習指導要領の教科の目標とのかか	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 1・2年8つ、3年7つの単元で構成されている。1年では小学校の振り返りを意識し、3年では、高等学校で取り上げられる作家の作品も掲載して、発達段階に応じて段階的に深化するよう単元が設定されている。</li> <li>○ 「書くこと」「話すこと・聞くこと」では、言語表現や対話・コミュニケーション能力の重要性を題材にした教材を多く配置している。また、メディアと表現について学習できる教材を設定し、伝え合う力を高める工夫がされている。</li> <li>○ 古典教材を「読むこと」と「伝統的な言語文化」に系列化し、日本の代表的な古典作品を取り上げるとともに、視覚資料やコラム教材を設定するなど、日本の伝統文化を継承する態度を育てるよう配慮している。</li> </ul>	
特色	<p><b>〈基礎的・基本的な知識・技能を習得する工夫〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「読むこと」では各教材に「みちしるべ」として「確かめよう」「深めよう」「言葉・表現」の三部構成で学習の進め方や重点を示しており、課題に躓いた生徒へのアドバイスも掲載されている。「漢字の練習問題」がチェック欄とともにまとめて設けられている。</li> </ul> <p><b>〈思考力、判断力、表現力等を育成する工夫〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「書くこと」では、四コマ漫画、写真、新聞、芸術作品等、視覚に訴える題材を用い、関心を高め、豊かな表現につながるよう配慮している。巻末に設けられた「表現テーマ例集」に「話すこと・聞くこと」「書くこと」の教材の具体的なテーマ例が示されている。</li> </ul> <p><b>〈主体的に学習に取り組む態度を養う工夫〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 各教材に「目標と振り返り」が示されている。「話すこと・聞くこと」「書くこと」では、複数の課題を提示して選択できるようにするとともに、日常に生かせるよう「学びを生かそう」を示している。「言葉の自習室」「学びのチャレンジ」には、発展的な学習に活用できる資料が掲載されている。</li> </ul> <p><b>〈言語感覚を豊かにするための工夫〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「四季のたより」で和歌や俳句等が紹介され、古文や季節の言葉に触れる工夫をしている。「学びのチャレンジ」では、多様な視点から言葉を捉える学習が設定されている。</li> </ul> <p><b>〈国語に対する認識を深め、国語を尊重する態度を育てるための工夫〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「本の世界へ」や「読んでみよう」では、様々な著作物が紹介されている。また「読書への招待」では、文豪の作品を取り上げ、名作に触れる機会を設定している。「言葉と仕事」や「ことばの散歩道」など、言語に関する教材を設定している。</li> </ul>	
	資料	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 巻頭に教材ごとの言語活動や学習内容の重点、教科書の使い方等を示している。</li> <li>○ 巻末の「言葉の自習室」には、学習内容を広げる作品や学習資料が掲載されている。巻末折込みには、古典作品や「古典・近代文学史年表」を掲載している。</li> </ul>
	表記・表	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 巻末に「理解や表現に役立つ言葉」「学習に必要な用語」の索引がある。</li> <li>○ 挿絵、写真、図表が大きく鮮明であり、それぞれの学年に基調とした色を設けている。脚注の学習活動を促す記号が分かりやすく示されており、本文の行数も数えやすくなっている。</li> </ul>
総括	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「書くこと」「話すこと・聞くこと」では、「学びの重点」として、学習指導要領に示されている学習事項のどれを学習するのが明確に示されている。「読むこと」では、段階的に学習を進め、学習者相互の考えの交流を促す学習課題が設定されている。言語の学習では、会話形式で話題を提供している。</li> </ul>	

# 研究調査報告書

教科名 ( 国語 )

項目	『国語』（光村・38）
教育基本法、学校教育法の下の中学校学習指導要領の教科の目標とのかわり	<p>○各領域の力が身に付くよう7つの単元で系統的に教材が配列されている。1年の冒頭に小学校からの円滑な接続を図る教材が、2・3年の冒頭に前学年の主な学習内容が掲載されており、既習事項を生かした学習の連続性に配慮した構成になっている。</p> <p>○「読むこと」では、教材理解をもとに自分の考えをもたせる設問を、「話すこと・聞くこと」「書くこと」では、学習者が相互に助言し合ったり感想を述べ合ったりする交流の場を設定し、習得と活用を繰り返しながら学習を進め、思考力や想像力を養う工夫がされている。</p> <p>○古典の表現を活用する学習の設定や、様々な古典作品・四季にちなんだ言葉の収録により、古典をより身近に感じられるようにしている。また、手紙や新聞、面接、スピーチなど実生活との関連を図り、言語活動を通して社会生活に必要な言葉の力が身に付くようにしている。</p>
特色 内容 資料 表記・表現	<p><b>〈基礎的・基本的な知識・技能を習得する工夫〉</b></p> <p>○「読むこと」に設けられた「学習」は、「確かめよう」「読みを深めよう」「自分の考えをもとう」と段階的な課題で構成されている。「学習の窓」「上達のポイント」には、教材に即した基礎的・基本的な知識・技能、学習者への支援が具体的にまとめられている。</p> <p><b>〈思考力、判断力、表現力等を育成する工夫〉</b></p> <p>○「読むこと」には、基礎的・基本的内容の確認をした後に読みを深める課題と自分の考えを持つための活用的な言語活動を重視した課題を設定している。「話すこと・聞くこと」「書くこと」には、他教科や日常生活に活用できる表現活動や相手や目的を意識して伝え合う力を育む言語活動を設定している。</p> <p><b>〈主体的に学習に取り組む態度を養う工夫〉</b></p> <p>○巻頭の「学習の見通しをもとう」に学習のポイントを示し、各教材には学習の「目標」と「学習を振り返る」が設定されている。「話すこと・聞くこと」「書くこと」には、生徒が選択できるようテーマ例や学習の方法を多数示すとともに、次の学習や日常に生かせるよう「次へつなげよう」が示されている。</p> <p><b>〈言語感覚を豊かにするための工夫〉</b></p> <p>○「季節のしおり」や後見返しの「色いろの言葉」には、季節感を表す印象的な言葉や伝統的な色名などが取り上げられている。読むことの教材の中の言葉の遣われ方に着目した課題を示した「言葉を広げる」が掲載されている。</p> <p><b>〈国語に対する認識を深め、国語を尊重する態度を育てるための工夫〉</b></p> <p>○読書への興味関心を高め生徒の読書生活を豊かにするため「読書案内」や「読書コラム」、教材と関連のある本の紹介を掲載している。資料編には、古典落語、能・狂言、歌舞伎などの日本の古典芸能や伝統的な言語文化に触れる資料を掲載して</p> <p>○巻頭に教科書の使い方や領域別教材一覧表が掲載されている。</p> <p>○巻末には、インデックスで5つの分野に分類された資料が学年に応じて幅広く掲載されている。折り込みで説明的な文章と文学的な文章の読むための学習用語ををまとめている。</p> <p>○自然の風景や生きものの写真、イラスト等が大きく掲載されている。</p> <p>○脚注に本文と関連ある事柄を、地図や写真等で示すとともに、類・対・意・文などの記号で学習活動を示したり矢印で関連する教材や表現を示したりしている。</p> <p>○巻末に「学習のための用語一覧」を索引として示している。</p>
総括	<p>○各学年7つの単元と巻末の文法・漢字・資料・付録で構成されており、生徒にとって親しみやすく、確かな言葉の力を育てる質の高い教材が多く、道徳教育との関連も図られている。表現に役立つよう多様な語彙を示した「感想を表す言葉」「感情を表す言葉」や情報について学ぶ「情報コラム」などが設定されている。また、身に付けた言葉の力を生かせるよう「生活に生かす」「他教科に生かす」を設定して</p>

## 国語科調査資料2

### ○分量について

		東書	学図	三省堂	教出	光村
1 総ページ数 ※教科書に振られたページ数の合計	1年	328	326	320	336	330
	2年	336	334	324	348	328
	3年	336	319	308	348	310
2 単元数	1年	7	5	7	8	7
	2年	7	5	7	8	7
	3年	7	5	6	7	7

### ○領域別教材数等について ※( )内は資料編の中の教材数

		東書	学図	三省堂	教出	光村	
1 教材数 ※扉の部分の詩等を含む	1年	56(28)	58(8)	53(28)	49(35)	56(20)	
	2年	54(30)	56(8)	48(30)	50(33)	57(16)	
	3年	54(31)	56(11)	45(29)	52(35)	51(20)	
2 領域別教材数	① 話すこと・聞くこと	1年	5(4)	4(0)	5(2)	5(5)	6(4)
		2年	5(5)	4(0)	4(2)	5(3)	5(1)
		3年	5(4)	4(0)	5(2)	5(4)	5(3)
	② 書くこと	1年	7(8)	4(0)	6(9)	6(7)	11(7)
		2年	7(5)	5(0)	5(10)	5(6)	9(2)
		3年	5(4)	5(0)	4(9)	5(5)	7(3)
	③ 読むこと	1年	24(5)	31(0)	18(1)	20(9)	21(4)
		2年	24(5)	33(0)	18(2)	19(9)	23(5)
		3年	25(7)	32(1)	18(3)	21(11)	20(6)
	④ 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	1年	17(11)	19(8)	24(11)	16(19)	16(9)
		2年	15(16)	16(8)	21(11)	18(21)	18(9)
		3年	15(17)	16(10)	19(11)	17(20)	15(11)

### ○文種別教材数について ※( )内は資料編の中の教材数

		東書	学図	三省堂	教出	光村
1 物語・小説・随筆 ※古典は除く	1年	5(1)	14(0)	6(1)	7(2)	7(1)
	2年	6(1)	16(0)	3(0)	6(1)	8(1)
	3年	5(1)	13(0)	4(0)	8(3)	5(2)
2 詩・短歌・俳句 ※巻頭詩等を含む	1年	11(0)	9(0)	3(0)	7(1)	8(0)
	2年	11(0)	10(0)	4(0)	7(1)	9(0)
	3年	12(0)	9(0)	4(0)	8(1)	10(0)
3 説明的文章 ※新聞記事等を含む	1年	5(1)	5(0)	4(0)	6(1)	6(1)
	2年	4(1)	5(0)	5(1)	6(1)	6(1)
	3年	6(1)	5(0)	5(2)	5(2)	7(1)
4 古典 ※漢文・和歌・川柳等を含む	1年	4(1)	7(2)	5(3)	3(5)	4(1)
	2年	3(3)	5(2)	4(4)	3(5)	5(2)
	3年	4(3)	8(2)	4(3)	3(4)	9(2)

### ○その他 ※( )内は資料編の中の教材数

		東書	学図	三省堂	教出	光村
学校図書館の活用や読書指導に関する教材数 ※読書案内・読書活動を含む	1年	6(1)	5(0)	1(3)	4(2)	4(0)
	2年	6(1)	6(0)	2(3)	4(2)	6(0)
	3年	6(2)	5(0)	1(3)	6(1)	6(0)